



康心会汐見台病院

産科だより

令和元年

令和元年の十月二十二日。即位礼正殿の儀が行われます。天皇の即位ごとに行われ、前回は一九九〇年十一月十二日でした。天皇、皇族、内閣総理大臣のほか、世界一九五ヶ国の国家元首も参加するので、想像していたよりもかなり大規模な儀式みたいですね。海外でいう、いわゆる「戴冠式」にあたる儀式のようです。午後1時から開始予定です。当日は「天皇の即位の日及び即位礼正殿の儀の行われる日を休日とする法律」で、令和元年限定で国民の休日になります。当院は通常通り、平日同様の診療になります。写真は前回の即位礼正殿の儀の際のもの。平成時代の即位礼正殿の儀は、私自身まだ産まれていなかったのですが、どのようなものかとても興味深いです。話題になっている台風19号が過ぎて、いい天気で令和天皇の即位をお祝いできるといいですね。



◆防災について ②

先月号でもお話ししましたが、今回も防災についてです。

今まで、地震や土砂災害等でたくさんの方が被災され、避難生活を経験しています。その中でママたちがどのようなことを感じたのか、少し調べました。

- ・ こどもの不安が強くなり泣き止まない
- ・ 赤ちゃん返りをする
- ・ 不眠
- ・ 落ち着かない

子どもは正直に反応します。避難所生活を送るだけでもストレスなのに、子どももこういった反応は当たり前なのですが、ママにとってさらにストレスを増強する原因ともなります。そんなとき、実際に経験したママ達は

「おっぱいを含ませていると子どもが安心してくれた」

「子どもがトイレに行くときは必ず一緒に行つた」

「おもちやがあると良かった」という声がありました。母乳はストレスのある状況下では一時的分泌量が少なくなることがあります。それでも今まで通りの授乳方法を変えないことが大切です。飲ませ続ければ分泌量もまた増えてきます。赤ちゃんにとっておっぱいは最高の安心材料です。あかちゃんが欲するままに授乳してあげま

しょう。とは言え、ずっと授乳することも簡単ではありません。抱っこしてやさしくぎゅうつとしてあげるのも効果的です。そこで、多くのママがあつてよかったなと感じたのは抱っこひも。被災地ではベビーカーを使えません。抱っこして安心させてあげるのにも便利ですが、移動時に両手が自由になるという点が良いみたいです。中にはそんな経験から、ベビーカーに必ず抱っこひもを備えるようになったママもいます。当院でも赤ちゃん用のベッドに災害時用のスリングを常備しています。もしも入院期間中に災害が起こった場合には、そのスリングを使ってママと赤ちゃんはヘアになって避難していただきます。そのスリングの入っている袋はママの防災頭巾にもなります。同じものを家庭で用意することは難しいですが、抱っこひも1つ備えていると便利かもしれませんね。

◆今月の赤ちゃん

9月17日 2時10分

女の子。名前は来珀（こはく）ちゃん。実はこの子、高校の同級生のベビーちゃん。助産師人生お友達第3号となりました。夜勤明けで帰った夜に先輩助産師に呼び出していただき、駆けつけることができました。初めてのお産でしたが、とてもスムーズで、7時間程度でお産になりました。無事に産まれてきてくれてホッとしました。



担当 郷原